

独自機能 (AMD 800 シリーズ)

GIGABYTE Control Center	2
1-1 RGB Fusion	4
1-2 FAN Control	5
1-3 Performance	6
1-4 Smart Backup	7
BIOS 更新ユーティリティ	9
2-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する	9
2-2 Q-Flash Plus を使用する	12



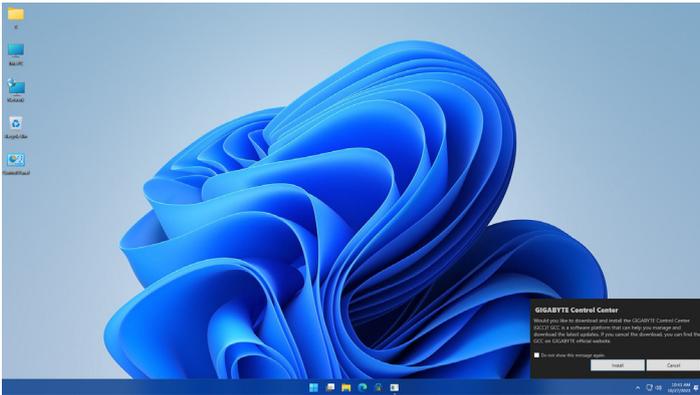
マザーボードのモデルとOSバージョンによってソフトウェアサポートは異なる場合があります。ソフトウェアのセットアップメニューは参考用です。

GIGABYTE Control Center

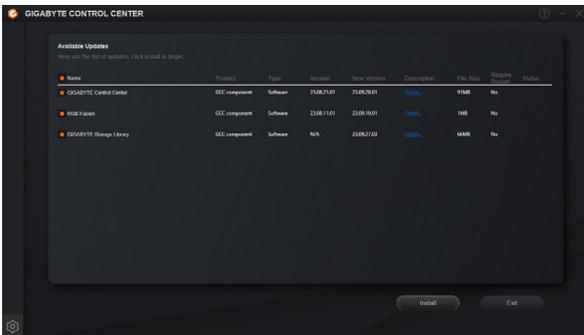
GIGABYTE Control Center (GCC) により、豊富な GIGABYTE アプリにアクセスしやすくなり、GIGABYTE マザーボードを最大限利用できるようになります^(注)。シンプルで統一されたインターフェイスを用いた GCC により、お使いのシステムにインストールされたすべての GIGABYTE アプリを簡単に起動し、オンラインで関連アップデートを確認するとともに、アプリ、ドライバ、および BIOS をダウンロードできます。

ドライバのインストール

オペレーティング・システムをインストールした後、GIGABYTE Control Center (GCC) 経由でドライバと GIGABYTE アプリケーションをダウンロードしてインストールするかどうかを尋ねる、ダイアログボックスがデスクトップの右下隅に表示されます。**Install** をクリックしてインストールを続行します。(BIOS設定画面で、**Settings**\IO Ports**Gigabyte Utilities Downloader Configuration****Gigabyte Utilities Downloader** が**有効**に設定されていることを確認してください。)



EULA (使用許諾契約書)ダイアログボックスが表示されたら、<Accept (同意する)> を押して GIGABYTE Control Center (GCC) をインストールします。GIGABYTE CONTROL CENTER 画面で、インストールしたいドライバとアプリケーションを選択して **Install** をクリックしてください。



インストールの前に、システムがインターネットに接続されていることを確認してください。

(注) GIGABYTE Control Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。

1-1 RGB Fusion

本アプリケーションは Windows 環境下で、オンボードLEDの点灯モードを有効化または指定することができるものです。(注1)

RGB Fusion インターフェイス



RGB Fusion 使用方法

- マザーボード上のLED照明、RGB LEDおよび addressable LED テープを制御するためのオプションを設定するには、マザーボードのアイコンをクリックしてさらに設定します。(注2) 希望のエリアを選択し、画面の右側セクションでLEDの色/点灯動作を選択します。
- Addressable LED テープを選択する場合は、**Scan** をクリックして取り付けられたテープの種類を検出します。RGB Fusion は、addressable LED テープの様々なデジタルモードを自動的に表示します。
- Addressable RGB Gen2 LED テープを設置した場合は、**Advanced** モードで個々の LED または LED テープを設定できます。



Addressable RGB Gen2 LED テープの表示例



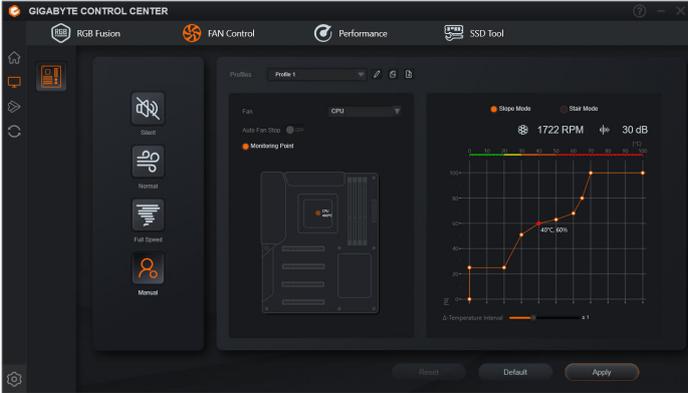
- LED の異常動作を避けるため、addressable RGB Gen1 LED テープと addressable RGB Gen2 LED テープを同じヘッダに同時接続しないでください。
- Addressable RGB Gen2 LED の最大数は256個、LED テープの最大数は8個です。
- 表示可能な LED または LED テープの数は、各 LED テープの仕様によって異なります。

(注1) RGB FusionはLED照明機能を持つデバイスを自動的に検索し、リストに表示します。
(注2) 領域/モード/色数などはマザーボードの型番によって異なります。

1-2 FAN Control

本アプリケーションでは、オペレーティングシステムでファン速度を監視し、調節できます。

FAN Control インターフェイス



FAN Control 使用方法

このアプリケーションでは、スマートファンのモードを指定することができます。

Manualモードでは、スマートファンの回転数を調整することができます。ファンは、システム温度によって異なる速度で動作します。**Reset**ボタンを使用すると、ファン設定を前回保存時の値に戻すことができます。**30 dB** ノイズ検出は、シャーシ内部のノイズレベル(デシベル単位)を検出します。



ファンヘッダーを選択
監視ポイントを
DDR に設定

マザーボードの同梱品にDDR Wind Bladeが含まれている場合は、そのファンケーブルを指定のファンヘッダーに接続します。**Manual**モードでは、ヘッダーを選択し、温度監視ポイントをDDRに設定します。これにより、FAN ControlでDDR Wind Bladeのファン速度を調整できるようになります。**注:**DDR 温度監視ポイントは、この機能をサポートするメモリモジュールが取り付けられている場合のみ利用可能です。詳細なサポート情報については、メモリバンダーにお問い合わせください。

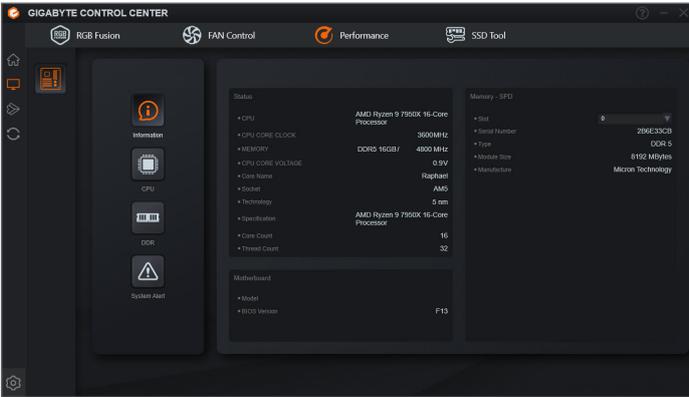


- 速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。
- ノイズ検出機能を使用するには、ノイズ検出ヘッダ付きのマザーボードが必要です。

1-3 Performance

このアプリケーションは、Windows 環境でシステム設定の微調整やオーバークロック/電圧調整を行うことができる、シンプルで使いやすいインターフェイスです。

Performance インターフェイス



Performance 使用方法

Information

この欄では、CPU、メモリ、マザーボードのモデル、BIOS バージョンに関する情報を表示します。

CPU

Frequency (周波数)	希望するシステム性能を達成するために選択できる、さまざまなレベルのCPU周波数を提供します。
Status (状態)	CPUとメモリの基本情報、CPUコア周波数、CPUコア電圧を表示します。
Voltage (電圧)	電圧を調整できます。
Power (電源)	電力制限、Load-Line Calibration 値、電圧保護値を設定できます。

変更を行ったら、変更を有効にするために必ずシステムを再起動してください。現在の設定をプロファイルに保存できます。最大2つのプロファイルを作成できます。

DDR

メモリ周波数を設定します。

System Alert

ハードウェアの温度、電圧、ファン速度を監視し、警告アラームを設定できます。



Performance で利用可能な機能は、マザーボードモデルおよびCPUによって異なります。淡色表示になったエリアは、アイテムが設定できないか、機能のサポートされていないことを示しています。



オーバークロック/過電圧を間違えて実行するとCPU、チップセット、またはメモリなどのハードウェアコンポーネントが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。オーバークロック/過電圧を実行する前に、Performance の各機能を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。

1-4 Smart Backup

Smart Backupにより、画像ファイルとしてパーティションを1時間ごとにバックアップできます。これらの画像を使用して、必要ときにシステムやファイルを復元できます。

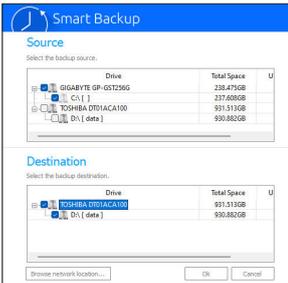


Smart Backupメインメニュー：

ボタン	説明
Settings	ソースと宛先パーティションを選択します
スタート	レスキュードライブを作成することができます
Backup Now	今すぐ、バックアップを実行できます
File Recovery...	バックアップ画像からファイルを回復できます
System Recovery...	バックアップ画像からシステムを回復できます



- Smart BackupはNTFSファイルシステムのみをサポートします。
- Smart Backupを初めて使用する時、宛先パーティション **Settings** を選択する必要があります。
- **Backup Now** ボタンは 10 分間 Windows にログインした後のみ利用可能です。
- **Always run on next reboot** チェックボックスを選択すると、システム再起動後に Smart Backup が自動的に有効になります。



バックアップを作成する：

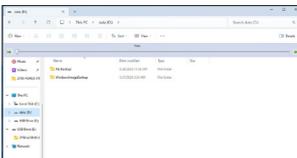
メインメニューで **Settings** ボタンをクリックします。**Settings** ダイアログボックスで、ソースパーティションと宛先パーティションを選択し、**OK** をクリックします。最初のバックアップは10分後に開始され、定期的バックアップが1時間ごとに行われます。注：既定値で、システムドライブのすべてのパーティションはバックアップソースとして選択されます。バックアップ宛先をバックアップソースと同じパーティションに置くことはできません。

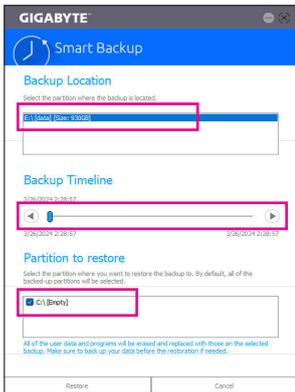
バックアップをネットワークの場所に保存する：

バックアップをネットワークの場所に保存するには、**Browse network location** を選択します。必ずお使いのコンピューターとバックアップを保存するコンピューターが同じドメインにあるようにします。バックアップを格納し、ユーザー名とパスワードを入力するネットワークの場所を選択します。オンスクリーンの指示に従って完了してください。

ファイルを回復する：

メインメニューで **File Recovery** ボタンをクリックします。ポップアップ表示されたウィンドウ上部のタイムスライダを使用して前のバックアップ時間を選択します。右ペインには、バックアップ宛先のバックアップされたパーティションが (**My Backup** フォルダに)表示されます。希望のファイルを閲覧してコピーします。





Smart Backupでシステムを回復します：

ステップ：

1. メインメニューで **System Recovery** ボタンをクリックします。
2. バックアップを保存する場所を選択します。
3. 時間スライダーを使用してタイムポイントを選択します。
4. 選択したタイムポイントで作成したパーティションバックアップを選択し、**Restore** をクリックします。
5. システムを再起動して、今すぐ復元を進めるかまたは後で復元を進めるかを確認します。「はい」と答えると、システムは再起動してWindows回復環境に戻ります。オンスクリーンの指示に従ってシステムを回復します。



ファイルとプログラムがすべて削除され、選択したバックアップに置き換えられます。必要に応じて、復元前にデータのコピーを必ず作成してください。

BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と Q-Flash Plus の 2 つの独自の BIOS 更新方法があります。どちらを選んでも、MS-DOS モードに入ることなく、BIOS 更新を可能にします。さらに、Q-Flash Plus 機能は、コンピュータの安全性と安定性のために、複数の保護機能を提供することができます。

Q-Flash Plus とは？

Q-Flash Plus では、システムの電源が切れているとき (S5 シャットダウン状態) に BIOS を更新することができます。最新の BIOS を USB メモリに保存して専用ポートに接続すると、Q-Flash Plus ボタンを押すだけで自動的に BIOS を更新できます。

Q-Flash™ とは？

Q-Flash があれば、MS-DOS や Window のようなオペレーティングシステムに入らずに BIOS システムを更新できます。BIOS に組み込まれた Q-Flash ツールにより、複雑な BIOS フラッシングプロセスを踏むといった煩わしさから開放されます。

2-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しい BIOS (X870EAORUSMASTER.F1 など) をお使いの USB フラッシュメモリ または USB ハードドライブに保存します。(注: USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16 ファイルシステムを使用する必要があります。)
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注: POST 時に <End> キーを押すか、BIOS Setup 画面で **Q-Flash** アイコンをクリック (または <F8> キー) して Q-Flash にアクセスできます。ただし、BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブまたは独立した SATA コントローラーに接続されたハードドライブに保存された場合、POST の間に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。



BIOS の更新は危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。



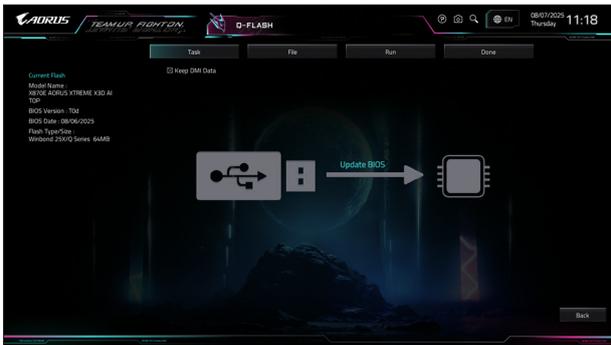
Q-Flash を選択してQ-Flash にアクセスできます。

B. BIOS を更新する

BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順は、BIOS ファイルをUSBフラッシュドライブに保存していることを前提としています。

ステップ 1:

1. BIOSファイルを含むUSBフラッシュドライブをコンピュータに挿入します。Q-Flashのメイン画面で、Update BIOS を選択してください。



- Q-Flash は FAT32/16 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュメモリまたはハードドライブのみをサポートします。
- BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した SATA コントローラーに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. BIOS 更新ファイルを選択します。



BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ 2:

画面には USB メモリから BIOS ファイルを読み込んでいることが表示され、その後、現在のアップデート処理状況が表示されます。



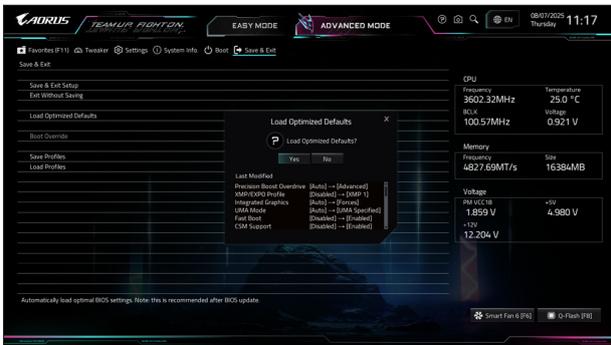
- BIOS アップデートの整合性を確保するために、システムは自動的にシャットダウンして再起動します。その後、Q-Flash による BIOS 更新が開始されます。
- システムが BIOS を読み込み/更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムが BIOS を更新しているとき、USB フラッシュドライブまたはハードドライブを取り外さないでください。

ステップ 3:

更新処理が完了後、システムは再起動します。

ステップ 4:

POST 中に、<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入ります。Save & Exit 画面で Load Optimized Defaults を選択し、<Enter>を押して BIOS デフォルトをロードします。BIOS が更新されるとシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOS デフォルトを再ロードすることをお勧めします。



Yes を選択して BIOS デフォルトをロードします

ステップ 5:

Save & Exit Setup を選択し、<Enter>を押します。Yes を選択して CMOS に設定を保存し、BIOS セットアップを終了します。システムの再起動後に手順が完了します。

2-2 Q-Flash Plus を使用する

A. 始める前に

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ダウンロードした BIOS ファイルを解凍し、USB フラッシュドライブに保存して、名前を **GIGABYTE.bin** に変更します。注:USB フラッシュドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. 電源ケーブルを 12V 補助電源コネクタ (2つある場合はどちらか一方に接続) とメイン電源コネクタに接続します。
4. USB フラッシュドライブを背面パネルの Q-Flash Plus ポートに接続する前に、電源ユニットの主電源をオンにしてください。

B. Q-Flash Plus の使用

Q-Flash Plus ボタンを押すと、システムは自動的にQ-Flash Plus ポートの USB フラッシュドライブの BIOS ファイルを検索して一致させます。QFLED または Q-Flash Plus ボタンは、BIOS マッチングおよび更新プロセス中に点滅します。6 ~ 8 分間待機し、BIOS 更新が完了すると、LED は点滅を停止します。



- BIOS を手動で更新する場合は、まずシステムがオフになっていることを確認してください (S5シャットダウン状態)。
- マザーボードに BIOS スイッチと SB スイッチがある場合は、それらをデフォルト設定に戻してから実行してください。(BIOS スイッチのデフォルト設定:メイン BIOS からの起動、SB スイッチのデフォルト設定:デュアル BIOS 有効)
- DualBIOS™を搭載したマザーボードでは、メインBIOSの更新が終わった後、システムが再起動した後にバックアップBIOSが更新されます。完了後、システムが再起動し、通常動作の場合、メイン BIOS から起動します。